

「ブラインド」パラスポーツ体験教室

種目：サウンドテーブルテニス

▼主催
東京都・公益財団法人東京都スポーツ文化事業団

▼協力
東京都立大学

活動場所 東京都立南大沢学園 体育館

2022年9月4日（日）

報告

「ブラインド」パラスポーツ体験教室

9月4日(木)、南大沢学園体育館において、「令和4年度都立特別支援学校活用事業ブラインドパラスポーツ体験教室」が開催されました。3回シリーズの初回は「サウンドテーブルテニス」が行われました。この教室は、本学ボランティアセンターのスポーツボランティアプログラムと連携して実施されました。

サウンドテーブルテニスとは？

目隠しをした状態でラバーの貼っていない木製ラケットを使い、音の鳴るピンポン球を卓球台のネットの下に転がして、相手のコートに打ち返します。勝負のカギを握るのは、音を聞き分ける集中力です。

スポーツ体験教室、会場準備・受付

今回の「サウンドテーブルテニス」には、参加者9名（障害のある方4名、障害のない方5名）、一般ボランティア9名、本学プログラムメンバー9名、他スタッフ5名、職員3名が参加しました。

11時過ぎから、本学ボランティアによるテーブル設営から始めました。通常の卓球台を使用したので、テーブルにはフレームがありません。専用のネットの張り方がきちんとできず、後ほど調整する必要がありました。早めの準備開始でゆっくり弁当を食べる時間がありました。

まず、大きな輪になって全18名のボランティアが自己紹介しました。次に総勢をテーブルごとに4グループに分けられました。



13時には9名の参加者もバスで到着し、受付を済ませました。コロナ禍が継続している状況から、受付で全員が検温と手指消毒を実施しました。体育館の窓を開け、空調設備で換気を徹底しました。



視覚障害の平等性で競技体験が盛り上がる

13時30分、東京都スポーツ文化事業団森様と本学信太先生のご挨拶で体験教室はスタートしました。埼玉障害者交流センターの白石講師が当該教室全体の指導・進行を進めました。

視覚障害者スポーツのビデオを見た後、2人1組で、1人がアイマスクを付け、もう一人が先導して体育館を1周しました。舞台の会談の上り下りもあり、アイマスクを付けた人は視覚障害者の苦勞の一端を体験しました。次に二人一組で床に座り、1人がボールを転がしてアイマスクを付けた受け手がラケットで打ち返す練習から始めました。最初は戸惑っても直にうまく打ち返しました。



最後に4グループでサウンドテーブルテニスを行いました。習熟度はテーブルごとに異なりましたが、どのテーブルも白熱した体験を繰り広げ、スコアボードも活用されました。約2時間のスポーツ体験会でしたが、参加者全員が楽しめる内容でした。学生・一般ボランティア同士が連携して、障害者を含む参加者とのコミュニケーションも取れて、参加者全員が積極的にサウンドテーブルテニスを楽しめたのが印象的でした。『参加して良かった』との声があちこちで聞かれました。

学生ボランティアの声

- 参加者とコミュニケーションをたくさん通して楽しむことができました。最初の方は自分から積極的に話に行くことが出来なかった。
- 障害を持った方やうまく動けない方々と、一緒に楽しくスポーツができました。
- サウンドテーブルテニスはとても楽しく、視覚が障害されているという平等性があるため他の障害を持っている方でも楽しめることに良さがあると思った。
- スポーツの時間が短かったと思う。
- SVPの皆が一般のボランティアの方とも参加者の方ともコミュニケーションを取っていて、楽しそうな雰囲気を感じられた。
- 障害を持つ方の視点に立って考えて意識して行動することが大切だと感じました。